

石膏ボ・ガイドライン完成を報告

コンクリート塊調査なども受託



木村孟理事長

（二社）泥土リサイクル協会（愛知県稲沢市、木村孟理事長）は8月23日、第15回通常総会を開催し、「再生石膏の有効利用ガイドライン」の完成などについて報告した。木村理事長は「東京オリンピック・パラリンピックまで一年を切る一方で、コンクリート塊について需給バランスの崩れなど状況が一刻一刻と変化している。リサイクルへの知見の発出や提案に努力していく」とあいさつした。

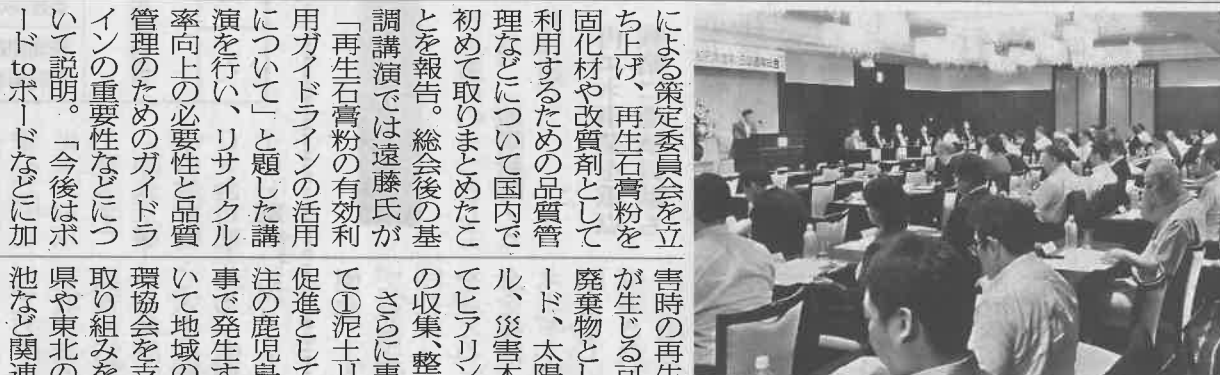
今年度は「再生石膏粉の有効利用ガイドライン（第一版）」が環境研究総合推進費「廃石膏ボードの品質管理の在り方と社会実装（主務・（国研）国立環境研究所、遠藤和人室長）」において作成され、同協会が事務局として運営を進めてきた。学術、行政、産業界の有識者

による策定委員会を立ち上げ、再生石膏粉を固化材や改質剤として利用するための品質管理などについて国内で初めて取りまとめたことを報告。総会後の基調講演では遠藤氏が「再生石膏粉の有効利用ガイドラインの活用について」と題した講演を行い、リサイクル率向上の必要性と品質管理のためのガイドラインの重要性などについて説明。「今後はボードtoボードなどに加え、再生石膏粉を利用した改質剤や改良材への展開が必要になる」と啓発した。

他にも九都県市で利用量を上回るコンクリート塊が発生し、需給バランスのギャップが生じる可能性が懸念されており、同協会が調査業務を受託。また2018年度災害廃棄物再生利用促進調査検討業務の支援として、災害時の再生利用に支障が生じる可能性のある廃棄物として廃石膏ボード、太陽光発電パネル、災害木くずについてヒアリングし、事例の収集、整理を行った。

さらに事業報告として①泥土リサイクルの促進として▽国交省発注の鹿児島県の道路工事で発生する汚泥について地域の産業資源循環協会を支援する形で取り組みを展開▽新潟県や東北のダム・ため池など関連工事での浚渫土砂を農地の土壌材として活用するための設計提案の支援（ガイドラインに基づく再生石膏粉の使用を提案）

②廃棄物・リサイクル処理事業並びに他分野事業との連携による地域の活性化・価値創出として▽建設汚泥については鹿児島事案の水展開として新潟や東北での地域の活性化・価値創出を展開▽コンクリート破砕粉について



総会には多くの関係者が集った

④他に泥土を適正に処理するための指導者育成講習会、各種展示会への出展、泥土リサイクル現場訪問などを行ったことを報告した。

新年度の事業計画として、建設汚泥については発注者主導型のリサイクル促進として先駆的な事例を発注機関に啓発し、具体的な処理・利用方法を提案。浚渫土砂についても水展開し、有効利用の提案を進める。廃石膏ボードについては、ガイドラインに基づいた技術開発に向けてアライアンスを構築し使用実績につなげていくことで実際に利用した際の不具合等を洗い出し、ブラッシュアップに努める他、昨年度に引き続きコンクリート破砕粉に関する研究開発や、環境省の委託業務「災害廃棄物再生利用促進検討業務」においては新規入会の環境管理センターとともに施策提案を進めていく。

の研究成果について論文の作成と学会での発表③大規模地震への備えとして環境省から協力要請に基づき、D.WasteNetのメンバーとして災害の種類・規模等に応じた災害廃棄物の処理関連

の研究成果について論文の作成と学会での発表③大規模地震への備えとして環境省から協力要請に基づき、D.WasteNetのメンバーとして災害の種類・規模等に